

2011年3月11日、東日本大震災によって仙台は甚大な被害を受けた。しかし、震災を経験したからこそ、仙台にしかできないような防災、減災を目標にした災害への備えを強化した街づくりが実現しつつあると思う。

仙台防災枠組は、国連をはじめとした世界に通ずるものであり、全世界共通で協力するための考え、目標や行動を示している。「よりよい復興」は、世界からの支援は欠かせないものである。だからこそ、災害リスク軽減に対しての知識や技能を身に付け、いつでもどこでも助け合えるような世界ネットワークやつながりを持っていく必要があると思った。また、枠組は私たちの役割や行動などを示してくれる重要で欠かせないものでもある。1人1人が災害時の役割を認識し、若者女性も中心となれる状況を常に作っておかなければならないと思う。私たちは「自助」「共助」「公助」の3つのことを念頭に置いて行動していかなければならない。地域が被災した時は、安全な避難の仕方、誰でも快適で安心して過ごせる避難所の在り方を考える。そのためにも、民間と政府の関わりは、重要なものでもあり、インフラや支援の準備を普段から行ったり、環境に配慮されたまちづくりをしていく必要が不可欠だ。だが、それだけでは防災は成り立たず、ステークホルダーが大きな効果を発揮することとなる。私たちみんなで役割を分担し、自分なりの責任を負い、知識をつけたり普段から訓練に取り組みなければいけない。

中高生は、地域にとって「動ける」人材であり復興に大きな力をもたらすと思うので、普段から心構えておくべきだと思う。

仙台は、防災に関してほかの都市に比べ、発展している。だからこそ防災について世界に発信していかなければならない使命があると思う。その一市民として、私も様々な取り組みをしていきたいと思った。まず、何から始めるべきか？自分に聞いていきたい。